

報告事項キ

平成22年度体力テスト調査結果について

平成22年度体力テスト調査結果について、別紙のとおり報告します。

平成23年4月14日

鳥取県教育委員会教育長 横 濱 純 一

平成22年度新体力テスト調査結果について

スポーツ健康教育課

1 調査対象及び人数

鳥取県内すべての公立小学校・公立中学校・県立高等学校（全日制）の児童生徒数の約10%にあたる人数を抽出した。

抽出数：7,129名（児童生徒数61,404名）

2 調査項目

（1）体力テストの調査項目（8項目）

- ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ

（2）生活習慣調査項目（7項目）

- ・運動部やスポーツクラブへの所属、運動の頻度（週回数、1日の時間）、朝食の有無、睡眠時間、テレビの視聴時間、パソコン・携帯電話の利用時間

3 調査期間

平成22年 5月～ 7月 調査

9月～12月 集計・分析

12月、 1月 検討委員会

4 調査結果の概要

- ・体力テストの合計点は、中学校2年の男子を除き、すべて全国平均より優っている。
- ・「シャトルラン」、「反復横跳び」は、男女を問わずほとんどの学年で、また、「立ち幅跳び」は、女子のほとんどの学年で全国値より優れている。
- ・一方、「50m走（小学生男子）」及び「ボール投げ（女子）」は、全国値を下回る傾向にある。
- ・年次推移で比較した場合、「50m走」及び「ボール投げ」については改善の兆しが見られるが、「握力（男子）」「長座体前屈」は、近年低下傾向が続いている。

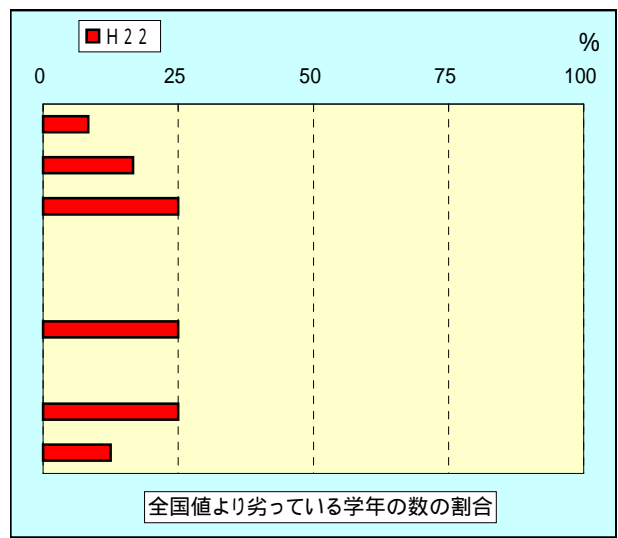
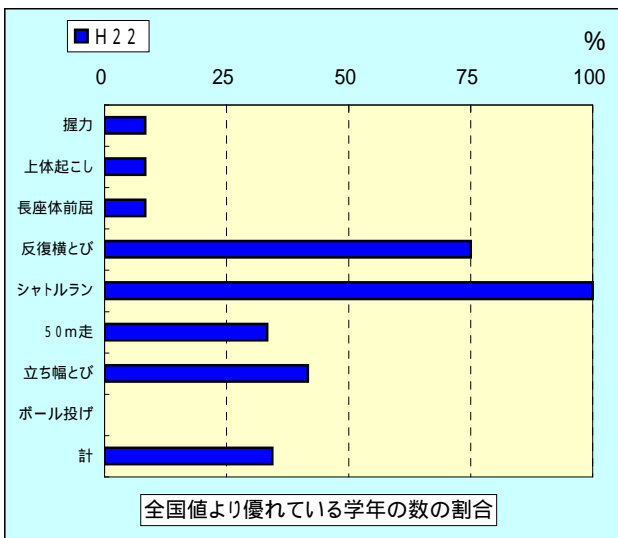
別紙 1

1 新体力テスト合計得点の全国平均値(平成21年度)との比較

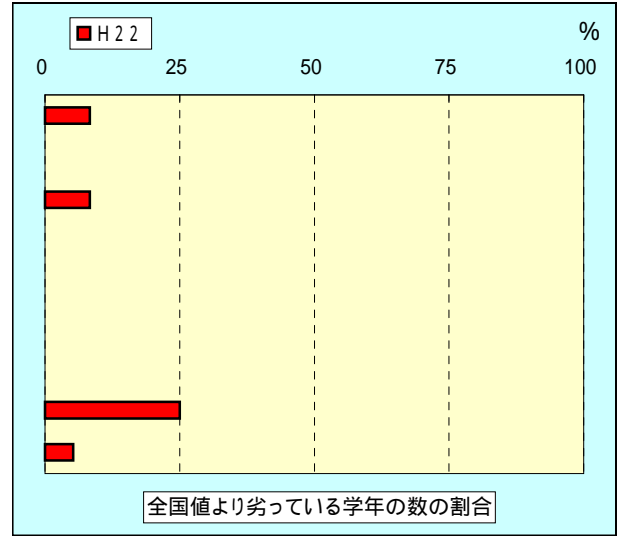
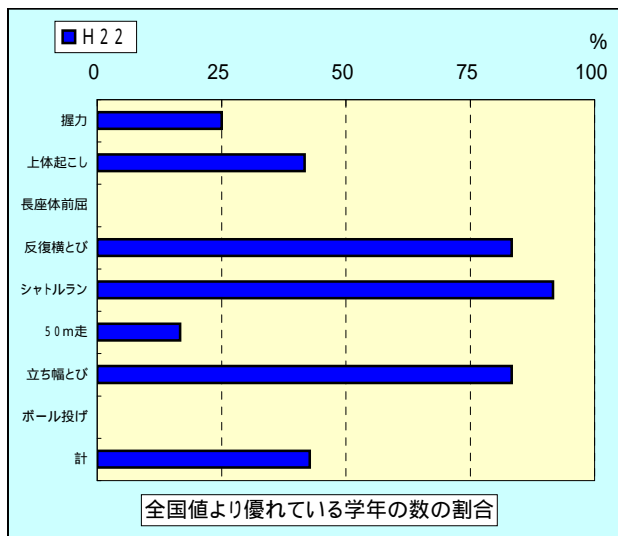
		小1年(6歳)	小2年(7歳)	小3年(8歳)	小4年(9歳)	小5年(10歳)	小6年(11歳)	中1年(12歳)	中2年(13歳)	中3年(14歳)	高1年(15歳)	高2年(16歳)	高3年(17歳)
男子	全国	30.53	37.58	43.79	50.02	55.61	61.27	34.13	42.89	49.38	51.65	55.46	58.77
	県	31.29	39.17	44.45	50.93	56.18	61.46	34.36	42.54	50.36	53.23	56.43	60.04
女子	全国	30.28	37.18	43.07	49.82	55.35	61.16	44.49	49.58	50.95	49.91	52.15	53.43
	県	32.13	38.57	45.52	52.20	57.65	61.90	44.75	49.91	52.56	51.38	53.98	55.62

2 Tスコアによる全国との比較(種目別に見た場合)

全国値(平成21年度)と比較して、各種目ごとの有意差が認められた学年の数(小1~高3・全12学年)の割合

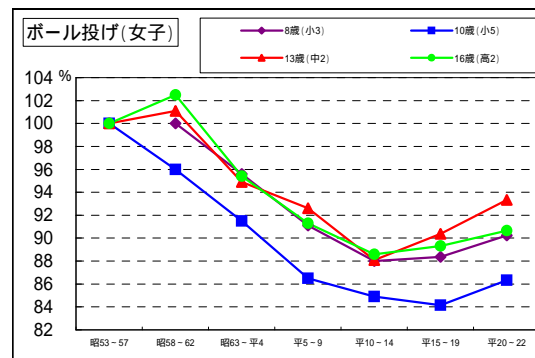
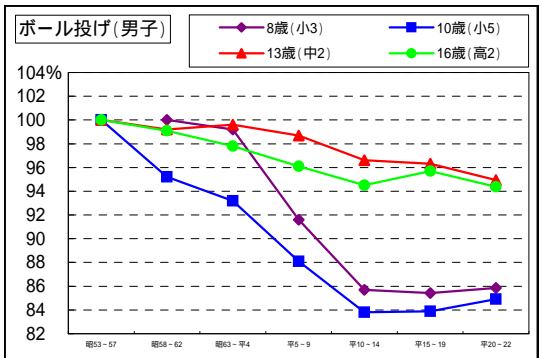
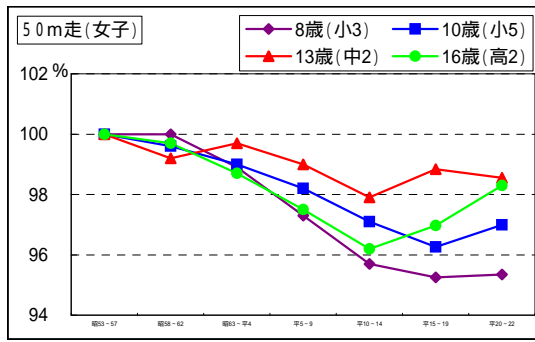
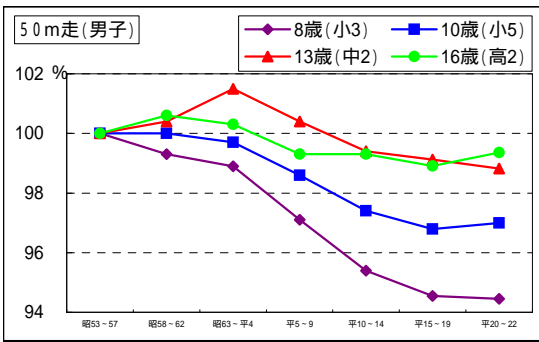


女子

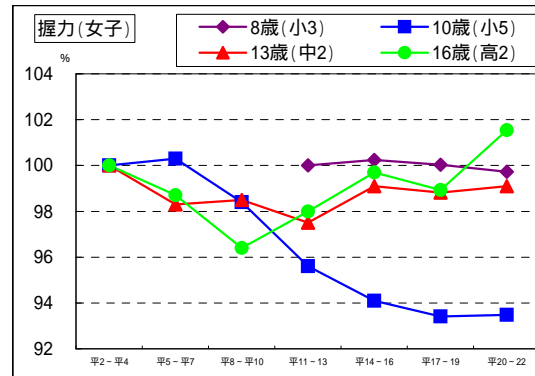
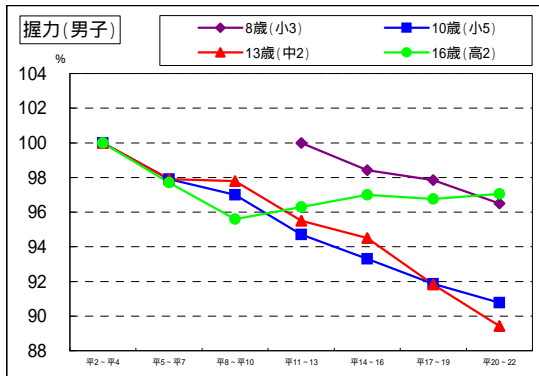


合計得点は、男女24学年中23学年で全国平均を上回っている。(昨年20学年)
 シャトルラン(全身持久力)、反復横跳び(敏しょう性)は、ほとんどの学年で男女とも全国平均より優れている。

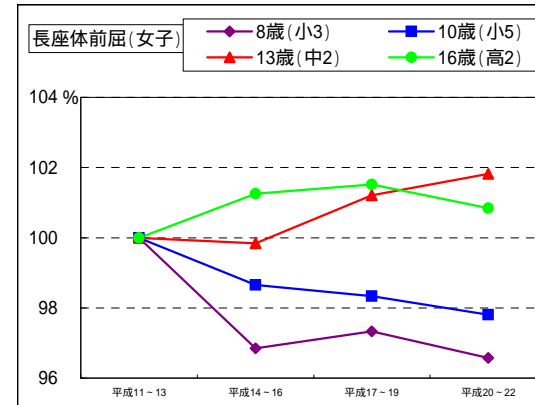
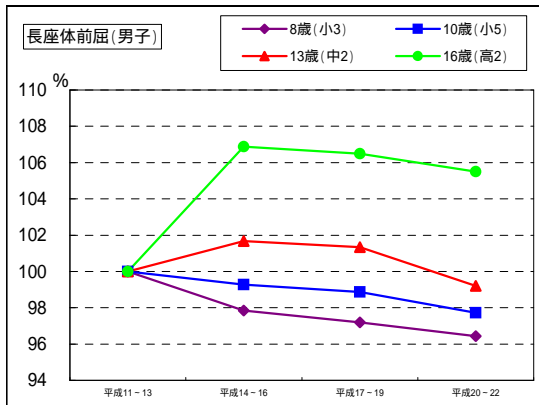
別紙2 「平均値の年次推移」



昭和53年～57年の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。



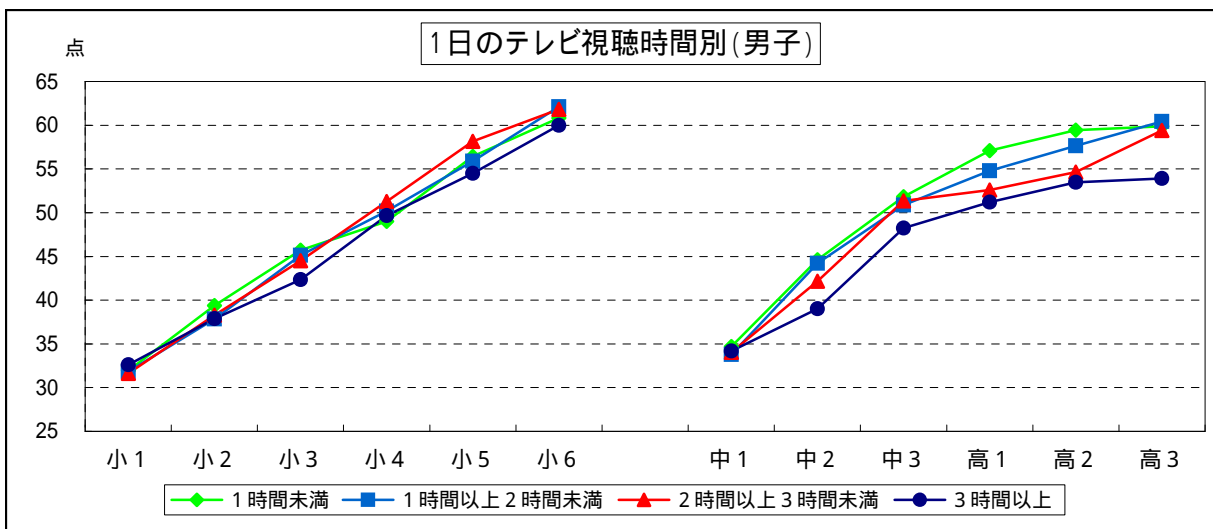
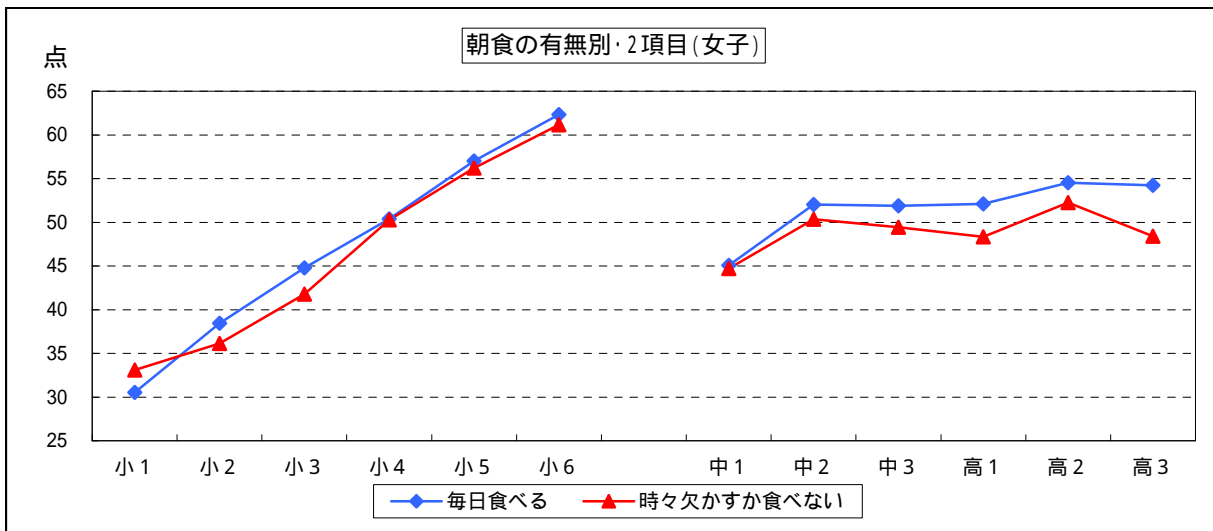
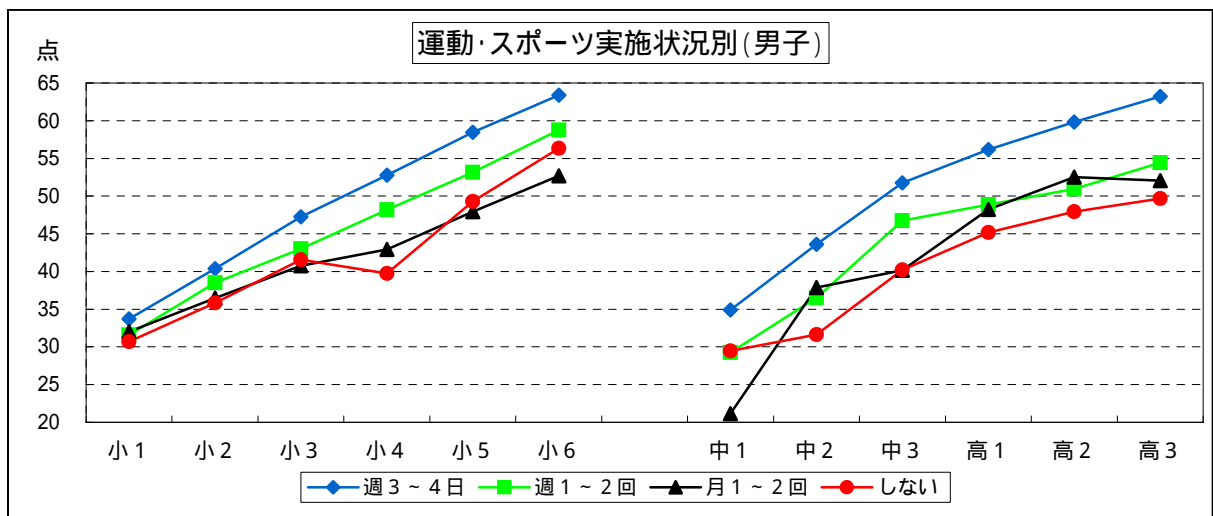
平成2～4の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。



平成11～13の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。

長年本県の課題とされてきた、50m走、ボール投げについては、全体的に低下傾向に歯止めがかかり改善の兆しが伺える。
握力については、男子の低下が著しく、高校生を除いて低下が続いている。
長座体前屈は、ここ数年低下傾向がみられる。

別紙3 「生活習慣と体力・運動能力の関係」



運動実施回数が多いほど、体力運動能力得点平均が高い傾向にある。
 「朝食の有無」「テレビの視聴時間」と体力得点の関係では、毎日食べる群とそうでない群、3時間以上テレビを見る群とその他の群の差が、中学生や高校生で大きくなっていく傾向にある。